

教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科の名称	専任教員数			非常勤 教員	専任教員一人あたりの 在籍学生数	備考
	計	基準数				
			内、理学療法士			
理学療法学科						
I 部	6 人	6 人	6 人	28 人	11 人	
II 部	5 人	5 人	5 人	19 人	4.6 人	
計	11 人	11 人	11 人	47 人	8.1 人	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又である専任教員の人数が適正である。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野	指定規則教育内容	担当授業科目名	担当 コマ数	担当教員			
				氏名（Ⅰ部）	職名	氏名（Ⅱ部）	職名
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	15	菅 吉基	兼		
		文化人類学	15	天野紗緒里	兼		
		社会福祉学	15	吉村 和代	兼		
		情報科学	15	八並 真澄	兼		
		保健体育学	15	北田 友治	兼		
		日常英語	15	小林 信子	兼		
		医学英語	15	豊田 慎一	専		
専門基礎	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	30	長谷川義美	兼		
		解剖学Ⅱ	30	長谷川義美	兼		
		生理学Ⅰ	30	中谷 直史	兼		
		生理学Ⅱ	30	中谷 直史	兼		
		運動学Ⅰ	15	沼倉 功	専		
		運動学Ⅱ	15	沼倉 功	専		
		運動学Ⅲ	15	岡田 恭兵	兼		
		運動学Ⅳ	15	沼倉 功	専		
	疾病と障害の成り立 ち及び 回復過程の促進	人間発達学	15	坂口 勇人	専		
		医学概論	15	池田やよい	兼		
		病理学概論	15	加藤 裕美	兼		
		薬理学	15	野々垣常正	兼	野々垣常正	兼
		内科学Ⅰ	15	古山 明夫	兼	古山 明夫	兼
		内科学Ⅱ	15	松井 康素	兼	古山 明夫	兼
		整形外科Ⅰ	15	森川 圭造	兼	森川 圭造	兼
		整形外科Ⅱ	15	森川 圭造	兼	森川 圭造	兼
		神経学	15	益田 健史	兼	益田 健史	兼
		臨床科学	15	高橋 立夫	兼	安田 宗義	兼
						前田 憲幸	兼
						伊藤 元一	兼
						高須俊太郎	兼
						永谷 哲也	兼
						石川 隆之	兼
		臨床心理学	15	菅 吉基	兼	菅 吉基	兼
		精神科学	15	奥代 啓太	兼	奥代 啓太	兼
		小児科学	15	益田 健史	兼	益田 健史	兼
		リハビリテーション学	15	梶原 敏夫	兼	梶原 敏夫	兼
				尾川 貴洋	兼		
				古川 公宣	兼		
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション障害論	15	中山 直輝	専		
		保健医療福祉制度論	15	中山 直輝	専		
		コメディカル論	15	村瀬 幸恵（言語療法）	兼	村瀬 幸恵（言語療法）	兼
				田中 敏彦（作業療法）	兼	田中 敏彦（作業療法）	兼
				林 隆彦（放射線）	兼	林 隆彦（放射線）	兼
				北川絵里奈（栄養）	兼	北川絵里奈（栄養）	兼
				吉戸 千景（看護）	兼	吉戸 千景（看護）	兼
		地域包括ケア論	15	北川 秀朗	専	北川 秀朗	専

分野	指定規則教育内容	担当授業科目名	担当 コマ数	担当教員			
				氏名（Ⅰ部）	職名	氏名（Ⅱ部）	職名
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	15	長岡 正和	専		
		理学療法概論Ⅱ	15	長岡 正和	専	中川 仁	専
		理学療法研究論	15	中川 仁	専	中川 仁	専
		機能解剖学	15	宮田かおり	専		
		運動生理学	15	本保 真	専		
		運動療法論	15	長岡 正和	専		
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	15	中山 直輝	専	中山 直輝	専
		理学療法管理学Ⅱ	15	坂口 勇人	専	坂口 勇人	専
	理学療法評価学	理学療法評価論	15	宮田かおり	専		
		理学療法評価学Ⅰ	15	北川 秀朗	専		
		理学療法評価学Ⅱ	15	靱内 真二	兼		
		理学療法評価学Ⅲ	15	小島 賢史	専		
		理学療法評価学Ⅳ	15	長岡 正和	専	本保 真	専
		理学療法評価学Ⅴ	15	水上 志帆	専	水上 志帆	専
	理学療法治療学	病態運動学Ⅰ	15	北川 秀朗	専	北川 秀朗	専
		病態運動学Ⅱ	15	豊田 慎一	専	豊田 慎一	専
		運動療法学Ⅰ	15	小島 賢史	専	宮田かおり	専
		運動療法学Ⅱ	15	中山 直輝	専	中山 直輝	専
		運動療法学Ⅲ	15	沼倉 功	専	沼倉 功	専
		運動療法学Ⅳ	15	長岡 正和	専	本保 真	専
		運動療法学Ⅴ	15	本保 真	専	本保 真	専
		運動療法学Ⅵ	15	水上 志帆	専	水上 志帆	専
		物理療法学Ⅰ	15	小島 賢史	専		
		物理療法学Ⅱ	15	小島 賢史	専	小島 賢史	専
		義肢学	15	坂口 勇人	専	坂口 勇人	専
		装具学	15	中川 仁	専	中川 仁	専
		理学療法特論Ⅰ	15	長岡 正和	専		
		理学療法特論Ⅱ	15	保村 豊	兼	保村 豊	兼
		臨床理学療法学	30	内部教員	専	内部教員	専
		臨床理学療法演習Ⅰ	15	内部教員	専	内部教員	専
		臨床理学療法演習Ⅱ	30	内部教員	専	内部教員	専
		臨床理学療法演習Ⅲ	15	内部教員	専	内部教員	専
	地域理学療法学	日常生活活動論	15	豊田 慎一	専	宮田かおり	専
		生活環境支援学	15	豊田 慎一	専	宮田かおり	専
		地域理学療法学	15	水上 志帆	専	水上 志帆	専
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	45	臨床実習施設指導者	兼	臨床実習施設指導者	兼
		臨床実習Ⅱ	45	臨床実習施設指導者	兼	臨床実習施設指導者	兼
		臨床実習Ⅲ	270	臨床実習施設指導者	兼	臨床実習施設指導者	兼
		臨床実習Ⅳ	720	臨床実習施設指導者	兼	臨床実習施設指導者	兼

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分でない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法の見学	1年後期	理学療法概論Ⅰを始めとした社会における理学療法士の役割や理学療法の目的等を学ぶ一連の講義	1年前期から後期
検査・測定の見学・体験	2年後期	理学療法評価学Ⅰ・Ⅱを始めとした理学療法士が行う検査・測定を学ぶ一連の講義	1年後期から2年前期
理学療法評価の実践	3年前期	理学療法評価論、理学療法評価学Ⅰ～Ⅴ、臨床理学療法演習Ⅰ・Ⅱを始めとした理学療法士が、患者が抱える障害を理解するための評価を学ぶ一連の講義	1年後期から2年後期
理学療法治療の実践	3年前期から後期	運動療法学Ⅰ～Ⅵ、臨床理学療法演習Ⅰ～Ⅲを始めとした理学療法士が実施する運動療法を学ぶ一連の講義	2年前期から3年後期
通所・訪問リハビリテーションの見学	3年後期	地域理学療法学や地域包括ケア論を始めとした福祉領域における理学療法士の役割を学ぶ一連の講義	2年前期から後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設ガイドラインで定める条件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成施設ガイドラインで定める条件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成施設ガイドラインで定める条件を満たす主たる実習施設で置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	倫理委員会
委員名（委員長）	中山 直輝
組織の開催頻度	常設委員会。授業評価実施月の2か月前より準備。
組織の取組内容	前後期末に授業評価を実施。
	授業評価における質問内容の精査。
	授業評価結果の取りまとめ・開示。
自己点検・評価結果公表	ファイリングし全教員に周知徹底。教員室にていつでも閲覧できるようになっている。

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	授業過程推進委員会
	委員構成等	宮田 かおり
	改善の仕組みの実際	各科目担当にコアカリキュラムの内容を提示し、その内容を含めたシラバスを作成していただく。その上で、毎年内容を確認している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記載してください。

・前期・後期終了時に授業評価を行っている。授業評価を確認し自己フィードバックを行うことで後期あるいは次年度に向けた講義内容・方法等の改善につなげている。 ・各教科に関しては、担当者が毎年講義内容を見直しブラッシュアップしている。 ・教員全員が関わる科目に関して、介入方法や評価基準等を会議にて検討を重ね実施している。 ・5年に1度、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価を受けている。機構が定めるリハビリテーション教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供、実施できる施設として認定されている。また指摘箇所に関しては、適宜改善案を示している。 ・学院の方針に関して、5年計画を作成し学園内計画推進会議にて進捗状況を年に2回、学園理事に報告している。 ・教員各自が専門学会に所属・参加し自己研鑽に努めている。
--